

しあさい



尻労(ソガマ)

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑩ ふるさと見聞録:石持^{いしもち}を訪ねて2
- 明日へのかけはし:東通ウォーキングクラブ4
- クローズアップ こんにちは元気さん:東田^{ひがしだ} 惣一^{そういち}さん4
- ファイト!わんぱく:東通小学校女子ミニバスケットボール部5
- 地元の特派員レポート:相内^{あいない} 寧々^{ねね}さん/宮川^{みやかわ} 俊一^{しゅんいち}さん6

vol.17
平成29年度発行

東北電力(株)東通原子力発電所



山、海、田、畑の幸がいっぱい!

いしもち

石持を訪ねて

伝統を受け継ぎ、地区民が心通わす住みよい地域

津軽海峡を望む高台、県道むつ尻屋崎線(県道6号)に沿って、東西に伸びた集落が石持地区です。

今から330年程前、貞享年中(江戸時代初期)の調べ書きに記されている集落で、先祖は元々稲崎に住んでいましたが「おもや七軒ななけん」と呼ばれる家が、より広い土地を求めて石持へ移り住んだと伝えられています。

歴史を紐解くと「トヤサキ」には、源氏の落武者と推測されるヤサキノシロウカゲモトが、区内内を流れる田名部川に橋を架けたと伝えられ、今もその橋は「ヤサキ橋」として残されています。

明治から昭和の時代には数度の大火を経験しており、高い場所に民家があり、風も強く消火活動が難しかったと言われています。

集落にあるほろさき袈崎神社は、寛永年間(江戸時代初期)にまつ祀られた神社ですが、二度の大火ですべて焼けてしまったため、創建に関わる資料は残されていません。

袈崎神社の隣には「石神様」が祀られています。元々は牛を伏せたような大きな石で、漁の網に掛かったため神社へ運ぼうとしたところ手前で動かなくなり、祠を建てて祀っています。昭和の大火で石は砕けてしまいましたが、子どものよう

に小さな石がたくさん寄り集まってできており、今も子どもを授かる石として信仰を集めています。

基幹産業の農林業は、米作りと炭焼きが主なもので、ビートや菜種を育てていたこともあったそうです。漁業は昭和の初めにイワシの地引網、のちにスルメイカ漁が行われ、集落には8艘の船がありました。畜産は、昭和30年代には農耕馬の肥育、昭和40年代から黒毛和牛の繁殖が行われ、今でも数十頭の牛が飼われています。

地域活動としては、地区会が年に3回道路沿いに花を植えるなど美化運動に取り組んでいるほか、集会施設の清掃、春祭り、秋祭りを行っています。敬神会は、袈崎神社に能舞の1つである権現舞を奉納するとともに、集落の財産である舞を伝承しています。また、この地は、現在むつ市にある「円通寺」の候補地の1つであったことから、今もお盆に権現様が神社に上がることを許された唯一の集落です。婦人会は田植餅つき踊りを生歌で伝承しているほか、赤十字の活動を支えるボランティアである日赤奉仕団として、小中学生と炊き出し交流も行っています。老婆会は毎月24日のお釈迦様の誕生日に集まって念仏を唱え、大きな数珠を回して百万遍を行い、地区の安全を祈っています。

石持地区は山も海も田も畑もあるため、かつて物々交換も行っていた温かい地域。交通の便が良く、とても暮らしやすい集落です。



袈崎神社



石神様



老婆会の皆さん

県の無形民俗文化財に指定されている小正月の伝統行事・田植え餅つき踊りの伝承を主に行っています。踊りは地区の五穀豊穡や家内安全を祈願するものです。地区内の担い手不足により、継続が危ぶまれる時期もありましたが、現在会員7人、若い人たちも加わり、盛り上げてくれています。

石持の踊りは、手をゆっくり動かすことから優雅で、太鼓や唄なども自分たちでやるのが特徴。生演奏は迫力があり、今後は、子どもたちにも教えていきたいです。



婦人会 会長
ささたけ けいこ
笹竹 慶子さん(63歳)

集落の神様である権現様を守り、春と秋の祭り、お正月に、獅子頭を歯打ちもさせながら勇壮に舞う権現舞を披露しています。

会員は20代から50代まで10人。みんなが幸せになるよう、心を込めて舞っています。

地区民に楽しんでもらえるよう、かつての演目復活も目指しています。



敬神会 会長
ふるかわ まさひと
古川 正人さん(54歳)



石持納屋

樹齢500年の御神木と石持納屋のある地域

石持地区発祥の地と言われる場所には、樹齢500年の杉の木がそびえています。この地で生まれ今年米寿を迎えた笹竹きよゑさんは、稲崎から移り住んだ「おもや七軒」のうちの一軒で「ゼニヤ」の屋号を持つ由緒ある家です。「昔は、ヤントの杉とか墓の1本杉と呼ばれ、大火でも焼けなかった伝説の樹です。近くにはお墓もあり、亡くなった人が迷わずお山(恐山)に行けるように立っていると聞きました。お盆にはお墓参りをする人もいました」と話します。今も地区のシンボルであり、象徴となっています。



笹竹きよゑさん



御神木

北部海岸の高台、荷さばき所の上に建っているのが「石持納屋」です。昔は、こんぶ、イワシ、イカなどがとれる漁期になれば、地区の人は、ここに寝泊まりして漁をしていたそうで、最盛期には60軒以上の納屋が軒を連ねていました。今も尚、10数軒が現役で使われています。



北部海岸

石持地区 会長 笹竹 重則さん(65歳)

ささたけ しげのり

63世帯180人が暮らす石持地区。今は勤め人が多いですが、昔は半農半漁でした。交通の便も良く、役場やむつ市に近い、生活環境が整った地域です。春と秋のお祭りや、美化活動など、地区民が団結して取り組んでいます。高齢化が進み、1世帯に1人で暮らす人も増えていますが、隣同士の連携を強め、みんなで見守るとともに、若い人が安心して住めるような地域にしていきたいと思っています。



毎月24日、17人の会員が「婆宿」に集まって集落の安全を祈願しています。
念仏や百万遍は、通夜、葬儀、法事には欠かせない祈りです。その時々に合わせて10数種の念仏があり、節を覚えるのは大変ですが、みんなで頑張っています。
この風習を絶やさぬように、若い人にも伝承していきたいです。



老婆会 会長
はたなか ゆりこ
畑中百合子さん(77歳)

毎月初めに、神社にお神酒を供え地区民の安全と繁栄を祈っています。
神社は、祭りのほかに、家族の健康、大漁、豊作を願い守ってもらうため、集落にとってなくてはならないものです。
個人的に歴史が好きで、今、石持地区について調べています。大切な地区の歴史を、次の世代にもしっかりと伝えていきたいと思っています。



襲崎神社 氏子総代
ふるかわ しょういち
古川 庄一さん(71歳)

明日への かけはし

東通村の頑張るグループを紹介

地域の素晴らしさを知りみんなで健康になろう!

〔東通ウォーキングクラブ〕

誰でも気軽にできるウォーキングを楽しみながら健康になろう!と頑張っているのが、東通ウォーキングクラブです。

設立は平成15年。それまで「歩く会」はありましたが、保健協力員などを中心に正式に会を作って組織で動き、村民みんなに歩くことの素晴らしさを伝えています。会員は、子どもから70歳代まで。毎日個人で歩くほか、年に3回村内を歩くウォーキング大会を開催しています。

各集落には保健協力員手作りのウォーキングコースがあり、「東栄を歩

こう」は車を気にせずのんびり30分約3000歩、「尻労を歩こう」は、海や山の景色を眺めながら1時間8000歩を歩くなど、その人のペースに合わせて歩くロードマップを作りました。

そして今年からスタートさせたのが「ジオパークウォーク」です。これは「下北ジオパーク」認定1周年を迎え、東通村にある、尻屋崎、北部海岸、猿ヶ森砂丘のジオサイトすべてを3回に分けて歩き、途中、地元のジオガイドが解説してくれる趣向。村内はもちろん、



川端孝悦会長

むつ市からも参加者が訪れています。

会長の川端孝悦さんは「歩いて、学んで、感じて、見つけて…。ジオパークウォークは、今まで知らなかった東通に出会い、更に健康になれる試みです。村内にはほかにも、桑畑山、片崎山など、景勝地がたくさんあります。健康増進を目指し、魅力的なスポットを、これからもみんなで歩きたいと思います」と話していました。



尻屋崎ウォーキング



北部海岸ウォーキング



東通ウォーキングクラブのみなさん

村内で元気に活動する人を紹介!

50-アツ

こんにちは 元気さん

東通村白糠子ども会育成会 会長
ひがしだ そういち
東田 惣一さん(80歳)

青少年の健全育成や防犯活動に尽力し、平成26年に「藍綬褒章」を受章した東田惣一さんから、お話を伺いました。

白糠で生まれ育ち、下北交通バスの運転手として長年働いた東田さんが、地域活動を始めたのは50年程前のこと。結婚して2人の娘の親となり、村内で最初に子ども会育成会を立ち上げたのです。「当時、白糠中と老部中が合併し南部中学校ができたのですが、それぞれの地域の子どもたちが対抗意識を持つ前に、小学生の頃から仲良くなって欲しいと願い育成会をつくりました。キャンプに行ったりソフトボール大会を開い

たり。白糠だけでも小中学生は200人もいたから盛況でした」と振り返ります。

そして、ソフトボール大会の後援依頼に警察署へ行ったのが縁で、青少年健全育成推進員、白糠防犯協会(当時)、東通村防犯指導隊長に。東通村子ども会育成会連合会長は20年も務め、子どもたちを見守ってきました。「中学校が荒れた時代、娘に嫌がられても学校に通い、子どもたちに直接話しかけました」。やがて東通村ボーイスカウト育成会も立ち上げ、会長としてさまざまな野外活動を経験させたほか、能舞を子どもたちに伝承する白糠勇清倶楽会長としても活躍。80歳となった今も、子ども会育成会とボーイスカウト育成会長として活動しています。

「藍綬褒章」受賞は「正直、びっくり

しました。でも白糠で育成会を組織したときから、年齢



毎日、自宅近くをウォーキング

や役職に関係なく、地元の子どもの面倒は地元に住むみんなで見ようとやってきた。それを続けているだけなんです」と東田さん。

元気の秘訣は、常に子どもたちと接していること。「子どもはめんこいし、素直だ。これからも子どもたちに叱るときはびりっと、褒めるときはしっかり、こそっとアドバイスして子どもたちを見守って行きたい」と話していました。



子ども会育成会長時代



白糠勇清倶楽会長時代



「藍綬褒章」を受章



東通小学校 女子ミニバスケットボール部

「努力家が多くて、みんな仲良し。まだまだ弱いチームだけど、互いに励まし合って練習に汗を流し、試合にのぞんでいます」と話すのは、東通小学校 女子ミニバスケットボール部のキャプテン・二本柳愛実さん。現在、6年生3人、5年生10人、計13人の部員で頑張っています。

練習は、月、火、木、金の放課後、男女一緒に体育館で行います。指導にあっているのは、監督の佐藤貴志先生と、コーチの佐藤聡太先生です。

まずはランニングや体操で体を温めたあと、自分の体のまわりでボールを回すボールハンドリングとフットワーク。次に、体格の近い4年生の男子を交え、シュートをメインにパスやドリブルを練習。基本動作に重点を置き、試合が近づくとミニゲームを展開します。



女子ミニバスケットボール部のみなさんとても励みになります」と二本柳キャプテン。「試合はドキドキするけど、みんなに注目されともっと上手になりたいと思う。夢は下北で一番になることです」とキッパリ。

佐藤監督は「ミニバスは、技術、体力だけでなく、礼儀や感謝など、心も育ててくれるスポーツ。子どもたちの目標が達成できるよう、力を尽くしていきたい」と話していました。

二本柳キャプテンは「先生に、声が小さいとか、同じミスを繰り返すな!と言われても、決してめげずに、それぞれがやる気をもって取り組んでいます。試合で、自分がディフェンスするからシュートして!と提案したことが上手くできたり、勝てばやっぱりうれしいですね」とにっこり。

監督の佐藤先生は「早く走ったり長く走ったり、ミニバスは普段の生活にない動きが多いし、自分たちのペースで試合が進む訳ではないので大変ですが、練習で身につけたことを試合で挑戦する子どもたちの前向きな姿勢は褒めてあげたい」と話します。

土曜日と日曜日はナイター練習も行っており「試合の送り迎えなど、家族や地域の人たちの応援は、



基礎練習もバッチリ



練習は男女一緒に!



ペアになってディフェンスの練習



キャプテンの
にほんやなぎあみ
二本柳 愛実さん
(6年)



シュートの練習



東通小学校 ミニバスケットボール部のみなさん



東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは今年10月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



改めて思った 老部の良さ

東通村老部在住 あいな ねね
東通小学校(6年) 相内 寧々さん(11歳)

私が育ってきた老部は、海、山、川の3つがそろっています。それぞれ時期になるとマスやふのり、ウニ、イカ、タラ、こんぶ、サケ、山菜、きのこがとれるので季節ごとに食べる楽しみがあります。今は川にサケがのぼってきています。サケは4年位で帰ってくるそうなので私達が1年生の時に放流した稚魚は去



老部川を遡上する鮭



老部川内水面漁協の鮭の捕獲作業



昆布干し

年か一昨年位に戻ってきたようです。傷つきながらも一生懸命帰ってくるサケの姿を見て改めて命の大切さを感じました。そんな老部川がある山の中は私の好きな場所の一つです。

老部には優しい人、面白い人がたくさんいて大好きです。朝の挨拶や会話をするだけで元気ができます。老部にはおいしい食堂や弁当屋さん、優しいおばちゃんがいる商店、床屋、薬局、コンビニなどがあり、とても住みやすいと思います。老部と白糠の境目がわからない人がけっこういると聞きました。今度ぜひゆっくり老部を通ってみてください。



老部の海岸



老部の町並



魅力的な鹿橋

しし ぼし
東通村鹿橋在住 みやかわ しゅんいち
宮川 俊一さん(62歳)

東通村を流れる田名部川の上流に位置し、平地の広がる、米作りの盛んな集落です。集落の中心には「砂取坂池野神社」があり、今から250年ほど前に勧請されました。境内にはユニークで愛嬌のある顔の狛犬があり、文久三年九月と記されていることから約150年程前(江戸時代)に奉納されたものです。集落の基幹産業の



狛犬



砂取坂池野神社

約8割は農業で、稲作や黒毛和種の繁殖などを行っています。鹿橋は村の民俗芸能である能舞の盛んな集落です。毎年9月の例大祭の神社祈禱やお正月の「門打ち」「幕開き」などには集落の方々はもちろん県内外からも多くの方が鑑賞に来ます。東通村の天然記念物である「鹿橋千年桂」も集落にはあり、そこには「石神様」が祀られ、水の精霊の物語などが伝えられています。のどかな田園風景の広がる鹿橋地区は歴史が感じられて、私にとってはとても魅力的な集落です。



鹿橋祈禱舞



鹿橋の田園風景



鹿橋千年桂と石神様

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
未長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

今年の7月に発電所に赴任して、初めて本誌の編集に携わりました。

「ふるさと見聞録」の取材では、お話を伺った石持地区の皆さんの、昔を思い出しながらの話や代々語り継がれてきた歴史について熱く語る姿から、生まれ育った地域への誇りと愛を感じることができました。

これからも限られた紙面の中で、より多くの東通村の魅力をお届けできるよう努めてまいります。引き続き、広報誌「しおさい」をご愛読くださいますよう、よろしく願いいたします。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」
「植林木」を使用しています。